

建設通信新聞

日測協

3D計測の情報紹介 実務者向けセミナー

日本測量協会は10日、大阪市の難波御堂筋ホールで実務者向けセミナーを開いた。写真。3次元計測技術の利活用などについて取り組み事例などの紹介があった。8年ぶりの大坂での開催に会員ら10

2人が参加した。

白井直樹常任参事は「前回の2017年度から久々の大坂開催となった。24年度からは3次元計測をテーマとして講習している。5人の講師が最新情報や事例を紹介する。

技術力向上や情報収集に役立ててほしい」とあいさつした。

セミナーでは、同協会の認定講師を務める学識者やゼネコン・コンサルタント企業の社員らが3次元計測機器や建設工事と空間情報の組み合わせ、災害時のデジタル査定などの事例を説明した。

大月庄治准教授は「3次元計測機器の最前線」と題し、



LiDAR(レーザー式測距装置)機器やMMS(モービルマッピングシステム)、S

LAM(自己位置推定)機器などの技術動向を紹介した。

セミナーは、測量・地理空間情報分野の技術者や経営者らへの情報提供を目的に、16年度から毎年開いている。